



安佐町

久地南

くちみなみ

古くからの地域と新興団地が融合
広島自動車道が地域内を縦走



程落神社付近から岳山を臨む

久地南地区は、昭和56年に久地南小学校が開校したことで、久地南学区が誕生しました。古くからある境原地域、幸ノ神地域、魚切地域、小野原上地域と、新しい団地の瀬戸内ニューハイツ、南が丘、くすの木台の各団地からなっています。

東に荒谷山、西に岳山^{だけやま}、北西に尻高山が見えます。上空から見ると、山を切り開いて瀬戸内ニューハイツ、南が丘、くすの木台の各団地が造られた様子が分かります。

境原地域、幸ノ神地域と瀬戸内ニューハイツの方から嶽川が流れ、魚切地域で吉山川に合流し、太田川に流れ込んでいます。

県道38号線（久地通り）が、南の安佐南区伴方面から北の布地区方面に通っています。

広島自動車道が通っており、高速バスの久地停留所、久地パーキングエリアがあります。

久地南地区には現在、1925世帯があり、約4200人が暮らしています。

地域を見守り千年 伝説の巨大杉

久地の千年杉

広島自動車にある高速バスの久地停留所近くに自動車道を横切る城下橋という高架橋があります。この橋より岳山頂上に向かう登山道の途中に貯水池があり、その近くの国有林内に千年杉があります。

急傾斜地に立ち、地上約2mから4mの位置で台杉型に株立となる。主な幹は7本あり、枝を多数分ち東西と南北にそれぞれ約18mの枝張りのある、円錐形状の樹冠をなしています。

樹高は40・3m、胸高幹周12・2m（主幹の幹周4・7m）、根本周囲8・15mと測定されています。近くに寄ってみるとさすがに大きく、圧倒されるような神秘さが漂っています。樹齢は600年から700年と推定され、現在広島県3位の巨杉であると認定を受けています。

この千年杉は、昔から巨杉ありと口伝えで知られていましたが、平成16年久地南岳山の会の会員によって存在が確認されました。現在では登山道の名物として整備され登山道口から近いということもあり、多くの来訪者に楽しんでもらっています。



地で道場を開設
体術(柔道)の先生

3 たかもりせんせいのおほか (たかつきづか)
高森先生のお墓(高月塚)

昔この辺りで体術(柔道)の先生が道場を開いていた。名前は高月吉半といわれているが、はっきりしていない。今ある「高森先生」のお墓と考えられている。



樹齢600年以上
県内3位の巨木

2 せんねんすぎ
千年杉

幹周12.2m、高さ40.3mの大杉。岳山登山口より、300m上の貯水池の近くにある。樹齢は600年から700年と推定され現在広島県3位の巨杉であると認定を受けている。



安芸武田氏の一族が築いた山城
城郭跡が当時を偲ばせる

1 だけじょうあと
岳城跡

岳山(標高521.5m)の山頂にあり、久地・阿戸・伴の三か村の界にあり、「芸藩通志」によると武田弾正が築いた城跡。城跡には、平らなところが1段あり城郭の跡と思われる。写真は城跡から安佐南区伴方面の眺望。

久地南 くちみなみ



悪霊の侵入を防ぐ神様
牛の市の繁盛祈願を合祀

6 えびす (さいのかみ) じんじゃ 胡子(幸の神)神社

悪霊の侵入を防ぐ神・旅の安全を守る神といわれ、村境・峠などに祀られた神社と、牛市の繁盛を祈って祀られた恵比寿神社を一つにして昭和41(1966)年に今の場所に移った。



九十九の谷しかなく
家臣が姫を神として祀った

5 あおさかみょうじんじゃ 青坂明神社

昔、お姫様が家臣と一緒に通られ、その時お姫様が「ここに谷が百あれば住まいする」と申されたので家臣が数えたところ、九十九の谷しかなく家臣の一人が住み、お姫様を神としてお祀りしたといわれている。



作物の守護神
毎年秋に例祭

4 えびす (みちしたえびす) じんじゃ 恵比寿(道下恵比寿)神社

【祭神】 事代主神 (境原)
【例祭】 11月15日(現23日)
【いわれ】
作物の守護神として祀り、境原道下神社とした。



散在の社を一か所に合祀
石と金と刀がご神体

9 うおきりじんじゃ 魚切神社

魚切地区には小さな神社が散在していた。昭和15(1940)年、三つの神社を合祀して今の所に移した。ご神体は石と金と刀。



三地区の農耕を守護する
五穀豊穡、家内安全の神

8 ほどおちじんじゃ 程落神社

【祭神】 宇気持神・大年神・少名彦神
【いわれ】
古くから、中田、程落、横田の三地区の農耕の守護神として祀られた神社。



灸治療院への案内
遠方から治療へ訪れた

7 いしどうろうときゅう(い)しゃ 石灯籠と灸(医)者

昔、中田地区(今の小野原上地区あたり)に灸(医)者がいて、遠方から多くの人々が治療に訪れていた頃の道標として建てられたと伝わっている。



合祀されてもなお
当地に残る観音様

12 やつでかんのん 八つ手観音

弁才天社(魚切神社に合祀される前の神社)があったところにある。昔この辺りの宗派が、真言宗であった名残。



魚の遡上を拒む滝
地区名の由来にも

11 よしやまがわのおおいわ(どんどん) 吉山川の大岩(どんどん)

吉山川にある落差約2mの滝。魚切地区の由来となった。地元では「どんどん」と呼ばれている。



幾年も往來を見続けた
分かれ道に立つ道標

10 どうひょう(せきひ) 道標(石碑)

阿戸(戸山)地区(現安佐南区沼田町阿戸)への分れ道の道標。